

## 8

# 野球を愛し、野球に愛された北の球聖 久慈 次郎

## 【中学校第3学年の実践】

### 1 主題名

郷土のために生きる【C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】

### 2 教材

野球を愛し、野球に愛された北の球聖 久慈 次郎（北海道版道徳教材（中学校用））

### 3 主題設定の理由【指導観】

#### (1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

郷土に対する愛着や郷土意識が希薄になっている傾向が見られる現在において、郷土によって育まれてきた伝統と文化に触れ、体験することを通して、そのよさに気付き、郷土に対する誇りや愛着をもつとともに、郷土に対して主体的に関わろうとする心や態度を育むことが大切である。このため、郷土や地域を愛し、積極的・主体的に関わり、郷土のために自分ができることは何かを考え、郷土の発展のために自分が寄与しようとする意識を高めることが重要である。

第3学年の指導に当たっては、地域社会に尽くし、自己の人生を大切にして生きてきた先人や高齢者などの先達への尊敬と感謝の気持ちをもたせ、進んで郷土の発展に努めようとする実践意欲と態度を育てていきたい。

#### (2) 生徒の実態【生徒観】

地域社会に尽くし、自己の人生を大切にして生きてきた先人や高齢者などの先達への尊敬と感謝の気持ちを深め、進んで郷土の発展に努めようとする実践意欲と態度を育てるために、道徳の時間（H31からは道徳科）以外では次のような指導を行っている。

##### ①社会科地理的分野「中部地方」（2年）

中部地方の第一次産業を学習するに当たって、八雲町の第一次産業との比較を行った。中部高地は、夏でも冷涼な気候を利用して、レタス、キャベツ、白菜などの野菜の抑制栽培を行っている。また、濃尾平野では水を豊富に確保できることから、稲作が盛んである。

一方で、八雲町は寒冷であるため、農作物の生育には適さず、酪農やホタテの養殖を中心とした産業が発展している。生徒は気候の視点から、それぞれの地域の産業が伝統や文化として継承されている理由について理解し、地産地消を積極的に取り組むことも郷土を愛する態度の1つであることを学んだ。この学習を通して、八雲町の一次産業のよさに気付き、郷土に対する誇りや愛着をもつとともに、郷土に対して主体的に関わろうとする心情が醸成されたことから、道徳の時間において、郷土のために自分にできることについて考えさせ、郷土に対して主体的に寄与しようとする態度を育みたい。

##### ②美術科 「手作りを味わう喜び」（3年）

第3学年では既存のアイヌ文様についての基本形や意味について学習した。その学習を踏まえて、自らアイヌ文様のデザインを創作し、デザインしたアイヌ文様を鍋敷きに彫刻した。鑑賞では、そのデザインにかけた思いについて発表し合うことで、広く北海道の文化について触れ、そのよさに気付き、郷土に対する誇りや愛着をもつ姿が見られた。

歴史的背景について理解を深め、郷土を愛する態度を育むことについては、社会科の学習と関連を図り、郷土を見つめさせる指導をする必要がある。

### ③総合的な学習の時間 「道南の魅力を伝えよう」(1年)

自ら育った道南の歴史・文化についての学習を行った後、班ごとに「食」、「人物」、「歴史」、「文化」、「芸術」、「国際」の6つのテーマから課題を設定し、解決を進める中で地域社会の実態を把握させ、郷土に対する認識を深めた。この学習を通して、道南の郷土の伝統と文化について知り、郷土のために自分が寄与しようとする意欲が高まった。

さらに、道徳の時間において、読み物資料等を通して考えたことを話し合うことにより、郷土や地域のために今の自分に何ができるかについて考えを深めさせることができることを考える。

### (3) 教材について【教材観】

社会に尽くした先人に対する畏敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めさせる態度を育てるために、函館出身ではなかった久慈次郎が憧れのプロからの誘いを断り、大火に見舞われた函館の復興に尽力した話をもとに、郷土について考えさせる。

そのために、基本発問では、「心のものさし」を使って、自分たちの住む町への愛情度を測り、どういうところが好きなのか自分の気持ちを見つめる。そのように問うことで、次郎が函館に対してもっていた誇りや愛着に気付かせ、社会に尽くした次郎の生き方に畏敬の念を抱かせるとともに、郷土を愛する態度や進んで郷土の発展に努めようとする態度の大切さについて考えを深めさせる。中心的な発問では「郷土を愛する」とはどのようなことかについて、話し合いを通して、多面的・多角的に郷土愛について考えを深めさせる。

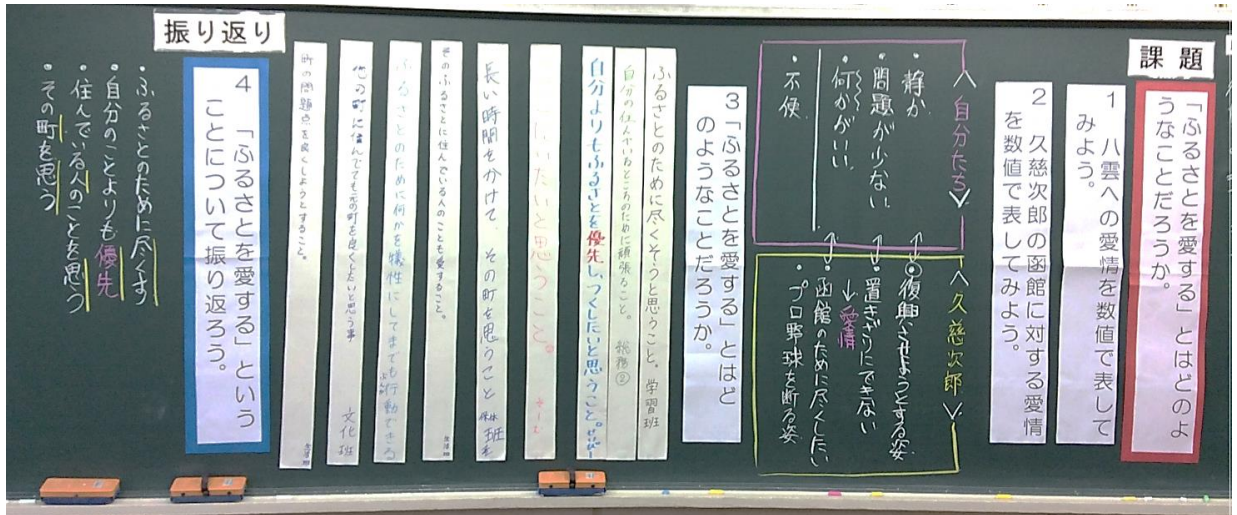
#### 4 ねらい

久慈次郎の生き方に触れることを通して、郷土に対する認識を深め、郷土を愛しその発展に努めようとする実践意欲と態度を育てる。

#### 5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「郷土」について考える。</li> <li>○ 郷土とは何だろうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・今住んでいるところ。</li> <li>・親しい友だちがいるところ。</li> </ul> </li> <li>● 八雲に対する思いについて考える。</li> <li>○ 八雲への愛情を数値で表してみよう。また、どのようなところに愛情をもっているか。あるいはなぜもっていないのか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が豊か。</li> <li>・食べ物がおいしい。</li> <li>・不便なところ。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。</li> <li>・心のものさしを使い、愛情を数値で表し、可視化する。</li> </ul>	<b>【工夫①】</b> ・本時で取り扱う内容項目について、学習当初の生徒の道徳的価値の理解や関心を把握するとともに、身近な地域への愛着について振り返らせ、主体的に考えることができるよう意識付けを行う。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教材「野球を愛し、野球に愛された北の球聖」を読み、話し合う。</li> <li>○ 久慈次郎の函館に対する愛情はどのようなものか、数値で表してみよう。また、久慈次郎のどのような姿からそのように感じるだろうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームが勝って、函館を活気づけようとする姿。</li> <li>・プロを断って、函館の町を復興させようとする姿。</li> <li>・ケガをしても一生懸命なプレーを見せようとする姿。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と久慈の郷土への愛情を対比させ、共通点や相違点から郷土に対する認識を深めさせる。</li> </ul>	<b>【工夫②】</b> ・生徒の発言を取り上げながら、考えを分類して構造的に板書し、自分と次郎の郷土に対する思いの共通点や相違点に気付くことができるようにする。
開	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 「郷土を愛する」とはどのようなことだろうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の人々への尊敬と感謝の気持ちを深める。</li> <li>・郷土のよいところを発信する。</li> <li>・郷土の伝統や文化に親しむ。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土を愛することについての対話を通じ、多様な考えがあることに気付かせる。</li> <li>■ 郷土に対する認識を深め、郷土を愛し、その発展に努めようとすることの大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。</li> </ul>	<b>【工夫③】</b> ・自分と次郎の郷土に対する思いの違いについて議論することにより、郷土を愛するとはどのようなことなのかについて、多面的・多角的に考えを深めさせる。
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「郷土を愛する」ことについて振り返る。</li> <li>○ 「郷土を愛する」ことについて、印象に残った言葉は何だろうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・尊敬      ・思う</li> <li>・感謝      ・親しむ</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土を愛することについて重要なキーワードをまとめる。</li> </ul>	<b>【工夫④】</b> ・本時を振り返り、学習当初と比較して、自分の考えの広がりや深まりに気付かせるようにする。

6 板書



7 ノート・ワークシート

(C-16 郷土を愛する態度) 平成 年 月 日 ( )

「野球を愛し、野球に愛された北の球聖 久慈次郎」

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

【読む前に】

1. 八雲への愛情を数値で表してみよう。

愛情をもっていない 普通 愛情をもっている

4 3 2 1 0 1 2 3 4

【読んで考える】

2. 久慈次郎の函館に対する愛情を数値で表してみよう。  
また、久慈次郎のどのような姿からそのような感じるだろうか。

愛情をもっていない 普通 愛情をもっている

4 3 2 1 0 1 2 3 4

<久慈次郎の姿>  
憧れていたプロの招きも函館留ても考えて断れずから。

3. 「ふるさとを愛する」とはどのようなことだろうか。 【ココが大事！】

長い時間をかけて、その町を思うこと  
自分がいるところが良い場所だと、自信をも、こゝを愛すること

【振り返り】

4. 「ふるさとを愛する」ことについて振り返ろう。 (自分の考え)

・ふるさとのために尽くす ・住んで、人のことを思ふ ・良くない、愛したいなどで別のことを思えること  
・自分のことより優先 ・その町を思う

【自己評価】

	高得点 ←	→ 高得点	低い	低い
自分の考えや意見をもちつことができた	(5)	4	3	2 1
自分の考えや意見を書くことができた	(5)	4	3	2 1
自分の考えや意見を発表することができた	5	4	(3)	2 1
友達や先生と意見を聞いて参考になった	5	(4)	3	2 1
授業の内容が、これからの生き方について考える時間となった	5	(4)	3	2 1

(C-16 郷土を愛する態度) 平成 年 月 日 ( )

「野球を愛し、野球に愛された北の球聖 久慈次郎」

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

【読む前に】

1. 八雲への愛情を数値で表してみよう。

愛情をもっていない 普通 愛情をもっている

4 3 2 1 0 1 2 3 4

【読んで考える】

2. 久慈次郎の函館に対する愛情を数値で表してみよう。  
また、久慈次郎のどのような姿から愛情を感じるだろうか。

愛情をもっていない 普通 愛情をもっている

4 3 2 1 0 1 2 3 4

<久慈次郎の姿>  
何歳あけてもあきらめず函館を盛り上げつとる姿勢  
プロ野球チームに誘われても函館留めのために断念した姿。

3. 「ふるさとを愛する」とはどのようなことだろうか。 【ココが大事！】

自分に都合よく暮らしてやりくりばかりでなく、  
その町のことを考え、貢献しようとする こと

【振り返り】

4. 「ふるさとを愛する」ことについて振り返ろう。

この暮らしかつても、八雲町を盛り、それに暮らしかつても、  
そのために自分にできることは、積極的に取り組んで貢献しようとする こと

【自己評価】

	高得点 ←	→ 高得点	低い	低い
自分の考えや意見をもちつことができた	(5)	4	3	2 1
自分の考えや意見を書くことができた	(5)	4	3	2 1
自分の考えや意見を発表することができた	(5)	4	3	2 1
友達や先生と意見を聞いて参考になった	(5)	4	3	2 1
授業の内容が、これからの生き方について考える時間となった	(5)	4	3	2 1

【授業実践を振り返って】

郷土を愛することについて、自分との関わりで多面的・多角的に考えることができるよう、函館出身ではなかった久慈次郎が大火に見舞われた函館の復興に尽力した話をもとに考え、「『郷土を愛する』とはどのようなことだろうか」と問いかけました。班活動ではこれこそが「郷土を愛する」ことだと思ふものについて短冊に記入させ、黒板に掲示して学級全体で交流できるよう工夫しました。

生徒からは、

- ・郷土を大切に、貢献すること。
- ・「郷土のために尽くしたい」という強い思いがあること。
- ・郷土を離れても、その場所を想い続けること。

など、郷土を愛しその発展に努めようとする発言や記述が見られ、自分との関わりで、多面的・多角的に考えながら「郷土を愛する態度」について考えを深めることができました。